

<領域別パッケージ>

区分	在宅・慢性領域 4 区分 4 特定行為		
区分別科目		特定行為	
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連		(A) 気管カニューレの交換	
ろう孔管理関連		(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	
創傷管理関連		(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連		(B) 脱水症状に対する輸液による補正	
時間数	68	講義60 演習 4 OSCE 3 科目修了試験 1 実習	
概要	在宅・慢性領域において安全に管理するために基礎知識、手技を学ぶ		
目標	1. 在宅・慢性領において特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける		
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、在宅・慢性領域における特定行為の実施の判断、実施、報告の一連の 流れを適切に行えるようになる		
	3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う		
講師	指導医師（救急科）		
	指導医師（形成美容外科）		
学ぶべき事項		内容	方法
1	(共通) 呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連の基礎知識	気管切開の目的、局所解剖、適応と禁忌	講義
2		気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント、気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
3		気管切開を要する主要疾患の病態生理（1）	講義
4		気管切開を要する主要疾患の病態生理（2）	講義
5	(A) 気管カニューレの交換	気管カニューレの適応と禁忌、気管カニューレの構造と選択	講義
6		気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	講義
7		気管カニューレの交換の手技（1）	講義
8		気管カニューレの交換の手技（2）	講義
9		気管カニューレの交換	演習
10	(共通) ろう孔管理関連の基礎知識	胃ろう、腸ろうに関する局所解剖	講義
11		膀胱ろうに関する局所解剖	講義
12		胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理	講義
13		膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理	講義
14		胃ろう、腸ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
15		膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
16		カテーテル留置と患者のQOL（1）	講義
17		カテーテル留置と患者のQOL（2）	講義
18		カテーテルの感染管理	講義
19		カテーテル留置に必要なスキンケア	講義
20	(A)胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろう及び腸ろうの目的、適応と禁忌、栄養に関する評価、胃ろう造設の意思決定ガイドライン	講義
21		胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）（1）	講義
22		胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）（2）	講義
23		胃ろう及び腸ろう造設術の種類、胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴	講義
24		胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期、交換の方法（1）	講義
25		胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期、交換の方法（2）	講義
26		胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	演習
27		皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖、主要な基礎疾患の管理、全身・局所のフィジカルアセスメント	講義

28	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	慢性創傷の種類と病態、褥瘡の分類、アセスメント・評価、治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）	講義
29		リスクアセスメント、褥瘡及び創傷治癒と体圧分散、褥瘡及び創傷治癒と排泄管理	講義
30		褥瘡及び創傷治癒と栄養管理	講義
31		DESIGN-Rに基づいた治療指針	講義
32		褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム、褥瘡の治癒のステージ別局所療法	講義
33		感染のアセスメント	講義
34		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（１）	講義
35		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（２）	講義
36		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（３）	講義
37		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（４）	講義
38		創部哆開創のアセスメントと治療	講義
39	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的（１）	講義
40		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的（２）	講義
41		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌（１）	講義
42		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌（２）	講義
43		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等）（１）	講義
44		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等）（２）	講義
45		DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	講義
46		全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等）（１）	講義
47		全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等）（２）	講義
48		壊死組織と健常組織の境界判断（１）	講義
49		壊死組織と健常組織の境界判断（２）	講義
50		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	講義
51		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法（１）	講義
52		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法（２）	講義
53		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	演習
54	(共通) 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖	講義
55		循環動態に関する主要症候	講義
56		脱水や低栄養状態に関する主要症候	講義
57		輸液療法の目的と種類 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義
58		輸液時に必要な検査	講義
59		輸液療法の計画	講義
60	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	脱水症状に関する局所解剖、原因と病態生理	講義
61		脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査	講義
62		脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	講義
63		脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法、副作用、脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク（有害事象とその対策等）	講義
64		脱水症状に対する輸液による補正の判断基準	演習
65	OSCE	気管カニューレの交換	OSCE
66		胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	OSCE
67		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	OSCE
68	在宅・慢性領域科目修了試験		試験
69	実習	各特定行為 5症例以上	

区分		術中麻酔領域 6区分 8 特定行為	
区分別科目		特定行為	
呼吸器（気道確保に係るもの）関連		(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの） 関連		(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		(D) 人工呼吸器からの離脱	
動脈血液ガス分析関連		(A) 直接動脈穿刺法による採血	
		(B) 橈骨動脈ラインの確保	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連		(B) 脱水症状に対する輸液による補正	
術後疼痛管理関連		(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	
循環動態に係る薬剤投与関連		(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	
時間数	77	講義63 演習10 OSCE 3 科目修了試験1 実習	
概要	術中麻酔において安全に管理するために基礎知識、手技を学ぶ		
目標	1. 術中麻酔に関連した特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける		
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、術中麻酔における特定行為の実施の判断、実施、報告の一連の 流れを適切に行えるようになる		
	3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う		
講師	指導医師（救急科）		
	指導医師（麻酔・疼痛・緩和医療科）		
学ぶべき事項		内容	方法
1	(共通呼吸器（気道確保に係るもの） 関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖、気管チューブの位置の調整に関する病態生理	講義
2		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント	講義
3		経口又は経鼻気管挿管の目的、適応と禁忌、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応	講義
4		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理、バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気	講義
5	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的	講義
6		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌	講義
7		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
8		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（1）	講義
9		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（2）	講義
10		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	演習
11	(共通) 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの） 関連の基礎知識	人工呼吸療法の目的、適応、禁忌	講義
12		人工呼吸療法に関する局所解剖と生理、人工呼吸療法を要する主要疾患の検査とフィジカルアセスメント	講義
13		人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	講義
14		人工呼吸器管理の適応と禁忌	講義
15		人工呼吸器のメカニズム 種類、構造と管理	講義
16	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応	講義
17		侵襲的陽圧換気の換気様式の目的と適応と禁忌	講義
18		侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
19		侵襲的陽圧換気の設定の変更方法	講義

20		侵襲的陽圧換気の設定の変更（１）	演習
21		侵襲的陽圧換気の設定の変更（２）	演習
22	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱の目的	講義
23		人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	講義
24		人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
25		人工呼吸器からの離脱の方法	講義
26		人工呼吸器からの離脱（１）	演習
27		人工呼吸器からの離脱（２）	演習
28	(共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識	動脈穿刺法に関する局所解剖、生理、フィジカルアセスメント	講義
29		超音波検査による動脈と静脈の見分け方	講義
30		動脈血採取が必要となる状況、検査	講義
31		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（１）	講義
32		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（２）	講義
33	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌	講義
34		穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
35		患者に適した穿刺部位の選択	講義
36		直接動脈穿刺法による採血の手技	講義
37		直接動脈穿刺法による採血の手技	演習
38	(B) 橈骨動脈ラインの確保	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	講義
39		穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
40		患者に適した穿刺及び留置部位の選択	講義
41		橈骨動脈ラインの確保の手技	講義
42		橈骨動脈ラインの確保の手技	演習
43	(共通) 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖	講義
44		循環動態に関する主要症候	講義
45		脱水や低栄養状態に関する主要症候	講義
46		輸液療法の目的と種類 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義
47		輸液時に必要な検査	講義
48		輸液療法の計画	講義
49	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	脱水症状に関する局所解剖、原因と病態生理	講義
50		脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査	講義
51		脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	講義
52		脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法、副作用、脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク（有害事象とその対策等）	講義
53		脱水症状に対する輸液による補正の判断基準	演習
54	(共通) 術後疼痛管理関連の基礎知識	硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌、局所解剖、主要疾患の病態生理	講義
55		硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）（１）	講義
56		硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）（２）	講義
57		硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義

58	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	硬膜外麻酔に用いる薬剤の選択と投与量（１）	講義
59		硬膜外麻酔に用いる薬剤の選択と投与量（２）	講義
60		硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法	講義
61		硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	演習
62	(共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖と生理	講義
63		循環動態に関する主要症候	講義
64		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理	講義
65		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
66		輸液療法の目的と種類	講義
67		病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義
68		輸液時に必要な検査	講義
69		輸液療法の計画	講義
70	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理、適応と使用方法	講義
71		各種糖質輸液、電解質輸液の副作用	講義
72		持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）	講義
73		病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準	演習
74	OSCE	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	OSCE
75		直接動脈穿刺法による採血の手技	OSCE
76		橈骨動脈ラインの確保の手技	OSCE
77	術中麻酔領域科目修了試験		試験
78	実習	侵襲的陽圧換気の設定の変更、非侵襲的陽圧換気の設定の変更、人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整、人工呼吸器からの離脱 各5症例	
評価	講義	全講義受講・ 確認テスト100%	
	演習	レポート 80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート	

区分		救急領域 5 区分9特定行為		
区分別科目		特定行為		
呼吸器（気道確保に係るもの）関連		(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整		
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連		(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更		
		(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
		(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
		(D) 人工呼吸器からの離脱		
動脈血液ガス分析関連		(A) 直接動脈穿刺法による採血		
		(B) 橈骨動脈ラインの確保		
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連		(B) 脱水症状に対する輸液による補正		
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		(A) 抗けいれん剤の臨時的投与		
時間数	89	講義71 演習14 OSCE3 科目修了試験1 実習		
概要	救急領域において安全に管理するために基礎知識、手技を学ぶ			
目標	1. 救急治療に関連した特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける			
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、救急領域治療における特定行為の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
講師	指導医師（救急科）			
	指導医師（救急科）			
学ぶべき事項		内容		方法
1	（共通呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖、気管チューブの位置の調整に関する病態生理		講義
2		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント		講義
3		経口又は経鼻気管挿管の目的、適応と禁忌、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応		講義
4		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理、バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気		講義
5	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的		講義
6		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌		講義
7		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）		講義
8		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（1）		講義
9		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（2）		講義
10		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技		演習
11	（共通）呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	人工呼吸療法の目的、適応、禁忌		講義
12		人工呼吸療法に関する局所解剖と生理、人工呼吸療法を要する主要疾患の検査とフィジカルアセスメント		講義
13		人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理		講義
14		人工呼吸器管理の適応と禁忌		講義
15		人工呼吸器のメカニズム 種類、構造と管理		講義
16	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応		講義
17		侵襲的陽圧換気の換気様式の目的と適応と禁忌		講義
18		侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）		講義
19		侵襲的陽圧換気の設定の変更方法		講義
20		侵襲的陽圧換気の設定の変更（1）		演習
21		侵襲的陽圧換気の設定の変更（2）		演習
22		非侵襲的陽圧換気の目的、設定条件の選択		講義

23	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌	講義
24		非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
25		非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	講義
26		非侵襲的陽圧換気の設定の変更（１）	演習
27		非侵襲的陽圧換気の設定の変更（２）	演習
28	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的	講義
29		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応、禁忌	講義
30		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
31		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量、鎮静の方法	講義
32		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（１）	演習
33		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（２）	演習
34	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱の目的	講義
35		人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	講義
36		人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
37		人工呼吸器からの離脱の方法	講義
38		人工呼吸器からの離脱（１）	演習
39		人工呼吸器からの離脱（２）	演習
40	(共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識	動脈穿刺法に関する局所解剖、生理、フィジカルアセスメント	講義
41		超音波検査による動脈と静脈の見分け方	講義
42		動脈血採取が必要となる状況、検査	講義
43		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（１）	講義
44		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（２）	講義
45	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌	講義
46		穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
47		患者に適した穿刺部位の選択	講義
48		直接動脈穿刺法による採血の手技	講義
49		直接動脈穿刺法による採血の手技	演習
50	(B) 橈骨動脈ラインの確保	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	講義
51		穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
52		患者に適した穿刺及び留置部位の選択	講義
53		橈骨動脈ラインの確保の手技	講義
54		橈骨動脈ラインの確保の手技	演習
55	(共通) 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖	講義
56		循環動態に関する主要症候	講義
57		脱水や低栄養状態に関する主要症候	講義
58		輸液療法の目的と種類 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義
59		輸液時に必要な検査	講義
60		輸液療法の計画	講義
61	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	脱水症状に関する局所解剖、原因と病態生理	講義
62		脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査	講義
63		脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	講義
64		脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法、副作用、脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク（有害事象とその対策等）	講義
65		脱水症状に対する輸液による補正の判断基準	演習

66	(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	神経系の局所解剖	講義
67		神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント (1)	講義
68		神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント (2)	講義
69		主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (1)	講義
70		主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (2)	講義
71		主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (3)	講義
72		主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (4)	講義
73		精神系の局所解剖	講義
74		精神医学的主要症候	講義
75		主要な精神疾患と病態生理 (1)	講義
76		主要な精神疾患と病態生理 (2)	講義
77		主要な精神疾患の面接所見	講義
78		心理・精神機能検査	講義
79		精神系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む)	講義
80	(A) 抗けいれん剤の臨時の投与	けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (1)	講義
81		けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (2)	講義
82		抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (1)	講義
83		抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (2)	講義
84		病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (1)	演習
85		病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (2)	演習
86	OSCE	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	OSCE
87		直接動脈穿刺法による採血	OSCE
88		橈骨動脈ラインの確保の手技	OSCE
89	救急領域科目修了試験		試験
90	実習	各特定行為 5症例以上	

区分		集中治療領域 6区分10特定行為	
区分別科目		特定行為	
呼吸器（気道確保に係るもの）関連		(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連		(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	
		(D) 人工呼吸器からの離脱	
循環器関連		(A) 一時的ペースメーカの操作及び管理	
栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連		(A) 中心静脈カテーテルの抜去	
動脈血液ガス分析関連		(B) 橈骨動脈ラインの確保	
循環動態に係る薬剤投与関連		(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	
		(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	
		(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	
時間数	82	講義67 演習12 OSCE 2 科目修了試験1 実習	
概要		集中治療において安全に管理するために基礎知識、手技を学ぶ	
目標		1. 集中治療に関連した特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける	
		2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、集中治療における特定行為の実施の判断、実施、報告の一連の 流れを適切に行えるようになる	
		3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う	
講師		指導医師（救急科）	
		指導医師（麻酔・疼痛・緩和医療科）	
		指導医師（循環器内科）	
学ばべき事項		内容	方法
1	(共通呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖、気管チューブの位置の調整に関する病態生理	講義
2		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント	講義
3		経口又は経鼻気管挿管の目的、適応と禁忌、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応	講義
4		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理、バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気	講義
5	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的	講義
6		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌	講義
7		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
8		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（1）	講義
9		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（2）	講義
10		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	演習
11	(共通) 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の基礎知識	人工呼吸療法の目的、適応、禁忌	講義
12		人工呼吸療法に関する局所解剖と生理、人工呼吸療法を要する主要疾患の検査とフィジカルアセスメント	講義
13		人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理	講義
14		人工呼吸器管理の適応と禁忌	講義
15		人工呼吸器のメカニズム 種類、構造と管理	講義
16		侵襲的陽圧換気の設定の目的、選択と適応	講義

17	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の換気様式の目的と適応と禁忌	講義
18		侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
19		侵襲的陽圧換気の設定の変更方法	講義
20		侵襲的陽圧換気の設定の変更（１）	演習
21		侵襲的陽圧換気の設定の変更（２）	演習
22	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の目的	講義
23		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静の適応、禁忌	講義
24		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
25		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量、鎮静の方法	講義
26		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（１）	演習
27		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（２）	演習
28	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱の目的	講義
29		人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌	講義
30		人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
31		人工呼吸器からの離脱の方法	講義
32		人工呼吸器からの離脱（１）	演習
33		人工呼吸器からの離脱（２）	演習
34	(共通) 循環器関連の基礎知識	経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖	講義
35		経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	講義
36		一時的ペースメーカーに関する局所解剖	講義
37		一時的ペースメーカーを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント	講義
38	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理	一時的ペースメーカーの目的、適応と禁忌、患者・家族への指導及び教育	講義
39		ペースメーカーの種類とメカニズム、一時的ペースメーカーの操作及び管理方法	講義
40		ペースメーカーのモードの選択と適応、一時的ペースメーカーに伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
41		一時的ペースメーカーの操作及び管理方法（ペーパーシミュレーション）	演習
42	(共通) 中心静脈カテーテル管理の基礎知識	中心静脈カテーテルに関する総論と局所解剖、中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント（１）	講義
43		中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント（２）	講義
44		中心静脈カテーテルの適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
45	中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌	講義
46		中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
47		中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技（１）	講義
48		中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技（２）	講義
49		中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技	演習
50	(共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識	動脈穿刺法に関する局所解剖、生理、フィジカルアセスメント	講義
51		超音波検査による動脈と静脈の見分け方	講義
52		動脈血採取が必要となる状況、検査	講義
53		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（１）	講義
54		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態（２）	講義

55	(B) 橈骨動脈ラインの確保	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	講義
56		穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
57		患者に適した穿刺及び留置部位の選択	講義
58		橈骨動脈ラインの確保の手技	講義
59		橈骨動脈ラインの確保の手技	演習
60	(共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖と生理	講義
61		循環動態に関する主要症候	講義
62		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理	講義
63		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
64		輸液療法の目的と種類	講義
65		病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義
66		輸液時に必要な検査	講義
67		輸液療法の計画	講義
68	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	カテコラミン製剤の種類と臨床薬理	講義
69		カテコラミン製剤の適応と使用方法	講義
70		病態に応じたカテコラミンの投与量の調整および副作用と調整とリスク	講義
71		病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準	演習
72	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	持続点滴によるナトリウム、カリウム、クロールの臨床薬理	講義
73		持続点滴によるナトリウム、クロールの適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク	講義
74		持続点滴によるカリウムの適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク	講義
75		病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準	演習
76	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	降圧剤の種類と臨床薬理	講義
77		各種降圧剤の適応、使用方法、副作用	講義
78		病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準とリスク	講義
79		病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準	演習
80	OSCE	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	OSCE
81		橈骨動脈ラインの確保の手技	OSCE
82	集中治療領域科目修了試験		試験
83	実習	各特定行為 5症例以上	
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%	
	演習	レポート 得点率80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	
	実習	各症例60%以上 評価表とレポート	